●中国

徳永 崇

概況。コロナウィルス感染症による影響もほぼ解消し，多くの演奏会が開催された。コロナ渦中に培ったインターネットによる広報活動やチケット販売のノウハウも定着。これまで制限してきた活動を再開する団体も多く見られ，都市部においては毎週末に公演が重なるなど若干飽和状態の様相も。一方，燃料費の高騰をはじめとする物価高を背景に経費が増加し，諸団体の経費を圧迫している。チケット料が値上がりし，集客の回復も鈍り，挑戦的な企画に躊躇する傾向も。逆境の中，福山ではホールと地元企業の連携による新たなクラシック音楽振興の取り組みが始まり，期待が高まる。

広島／４月より広島交響楽団の音楽監督にアルミンク，ミュージック・アドバイザーに徳永二男が就任。特別公演含む12回の定期演奏会を実施。まず下野竜也音楽監督による１～３月にかけて，第437回定期の藤倉大《トロンボーン協奏曲》，や特別定期の細川俊夫《セレモニー》など，邦人作品への取り組みが充実。一方４月以降は，ドイツ・オーストリアなどの作曲家を中心とし重厚な演目を丁寧に紐解く方向に。アルゲリッチを招聘しマーラーの交響曲第10番とプロコフィエフのピアノ協奏曲第３番が披露された４月特別定期，徳永二男がブラームスの交響曲第３番を指揮した５月第441回定期など。また北欧を特集した６月第442回定期，女性アーティストをテーマとした７月第443回定期などは特色ある企画。有能なソリストにも恵まれ，10月第445回定期のポール・ホワンによるR.シュトラウスのヴァイオリン協奏曲は話題に。

定期以外の広響公演は，テーマを深掘りする「ディスカバリー・シリーズ」（１・７・９・11月）と，名曲を聴かせる「音楽の花束」（２・５月）など。前者では１月に一柳慧の交響曲「ベルリン連詩」，それ以降はモーツァルトとコルンゴルトを連続で比較演奏。後者では連続でブルッフが取り上げられる。８月恒例の「平和の夕べ」ではマーラーの交響曲第２番を。12月の沼尻竜典指揮「第九ひろしま」は40周年を迎えた。

海外からは７月にバーゼル室内管弦楽団が反田恭平（pf）と共にベートーヴェンの協奏曲第５番他を，９月にウィーン放送交響楽団が角野隼斗と共にモーツァルトの協奏曲他を。

オペラ分野では，広島シティオペラが《リタ》を１月に，広島オペラアンサンブルが《カルメン》を６月に，ひろしまオペラ・音楽推進委員会が《修道女アンジェリカ》と《ジャンニ・スキッキ》を８月に。

吹奏楽分野では，広島ウインドオーケストラが６月の定期演奏会で西村朗を特集（指揮：下野竜也）。

現代音楽分野では，細川俊夫音楽監督の「Happy New Ear」公演において，赤坂智子（vla），大田智美（acc）が細川・J.S.バッハ・ピアソラ他を１月に，ケラーマン（gt）が細川・武満他を９月に好演。

アルミンクが審査委員長を務める第２回広島国際指揮者コンクール（隔年開催）で中国のシェン・イーウェンが第１位。

福山／リーデンローズ，神辺文化会館，沼隈サンパルが「福山文化ホール」として組織統合。さらに開館30周年となるリーデンローズが，広島交響楽団及び京都市交響楽団と提携し，年度ごとに各３回で計６回の定期公演企画を始動。芸術文化財団の豊田泰久理事長や作田忠司館長らの熱意と地元企業によるバックアップの成果が実る。広響は４月にアルミンク，京響は６・９・11月に井上道義，阪哲朗，沖澤のどかが指揮。音楽大使に篠崎史紀を任命というのもユニーク。「若きヴィルトゥオーゾ」シリーズでは周防亮介（vn），活躍が期待される若手に着目した「Up & Coming Artists Series」では中野りな（vn），谷昂登（pf）らが熱演を披露。恒例の「ばらのまち福山国際音楽祭」ではヨンミン・パク（指揮），ハンギョン・アルテ・フィルハーモニック，バリー・ダグラス（pf），大阪交響楽団等が好演。

三原／芸術文化センターポポロが改修を終え，年初より通常営業。５月の広島ウインドオーケストラ（指揮：下野竜也），朴葵姫（gt），11月の亀井聖矢（pf）など。

東広島／芸術文化ホール「くらら」で，NHK交響楽団がシベリウスのヴァイオリン協奏曲他を４月に（指揮：グスターボ・ヒメノ，vn：ノア・ベンディックス・バルグリー）。11月の広響第５回東広島定期演奏会でメンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲他（指揮：徳永二男，vn：神尾真由子）。12月に鈴木優人バロック企画 with バッハ・コレギウム・ジャパン公演。

呉／７月の広響第34回呉定期演奏会でドビュッシー《海》他（指揮：ロマン・レシェキン）。12月の第10回ミュージックフェスティバル・イン・クレで広響によるベートーヴェンの第九（指揮：岩村力）。

廿日市／４月の広響第24回廿日市定期演奏会でブルックナーの交響曲第４番他（指揮：アルミンク）。６月に「はつかいち室内合奏団”SA・KU・RA”」がグリーグの組曲「ホルベアの時代から」他（指揮：澤和樹，vn：上野眞樹）。

岡山／岡山フィルハーモニック管弦楽団が例年通りニューイヤーコンサートと４回の定期演奏会を実施。３月第79回定期公演でブラームスの交響曲第４番他（指揮：秋山和慶），７月第81回定期公演でマーラーの交響曲第５番他（指揮：キンボー・イシイ）など。名曲コンサート（７月），ベートーヴェンの第九公演（12月）も恒例。オペラ分野では，東京二期会オペラ《コジ・ファン・トゥッテ》が９月に。

島根／プラバホールが改修を終え４月より新装オープン。４月の広響第31回島根定期演奏会でドヴォルザークのチェロ協奏曲他（指揮：アルミンク，vc：横坂源），８月の亀井星矢ピアノリサイタル，11月のミシェル・プヴァール　オルガンリサイタルなど。島根県芸術文化センター「グラントワ」における７月の新日本フィルハーモニー交響楽団島根公演ではチャイコフスキーの弦楽セレナーデ他（指揮：野津雄太）。

山口／宇部市渡辺翁記念会館で阪田知樹（pf）リサイタルが４月に，日本フィルハーモニー交響楽団がモーツァルトのフルート協奏曲第２番他を10月に（指揮：大井剛史，fl：高木綾子）。シンフォニア岩国で読売日本交響楽団がモーツァルトのピアノ協奏曲第23番他を12月に（指揮：大井剛史，pf：角野隼斗）。

鳥取／東京二期会オペラが《椿姫》を１月に，オーケストラ・アンサンブル金沢がファリャのバレエ音楽「恋は魔術師」他を３月に，読売日本交響楽団がチャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲とラフマニノフのピアノ協奏曲第２番を３月に（指揮：ニール・トムソン，vn：三浦文彰，pf：辻井伸行），NHK交響楽団がグリーグのピアノ協奏曲他を７月に（指揮：クリスティーナ・ポスカ，pf：イ・ヒョク）。

徳永 崇（とくなが・たかし）

作曲家。広島大学大学院人間社会科学研究科教授。広島大学大学院教育学研究科，東京藝術大学音楽学部別科作曲専修及び愛知県立芸術大学大学院音楽研究科博士後期課程修了。ISCM World Music Days入選（2002/香港，2014/ヴロツワフ）。武生作曲賞（2005）。作曲家グループ「クロノイ・プロトイ」メンバーとしてサントリー芸術財団第９回「佐治敬三賞」（2010）。